国際協力最前線・第150回

Title:「タイの特別支援教育センターにおける美術教育」

障害児・者支援 : 中澤さつき

「タイの特別支援教育センターにおける美術教育」

障害児・者支援 : 中澤さつき

●タイの特別支援教育センター

コンケン第9教区特別支援教育センターは、各県に設置されている特別支援教育センターのうちのイサーン地方9県を管轄するセンターである。

センターに通所している子ども達は、知的障害、自閉症、肢体不自由、聴覚障害の障害種別クラス及び通常学校通学準備クラスの5つのクラスに分かれて活動をしている。

●特別支援教育センターにおける美術教育の意義

センターではクラスでの活動の他に、理学療法、作業療法、言語訓練、アクアセラピー等を子ども達一人ひとりの実態に合わせて個別・少人数指導で行っている。美術もそうした療育的な授業として行われており、私は専科の教員と協働して美術の授業を行っている。

特別支援教育センターでは、早期療育並びに通常学校への移行を一番の目標としているため、生活や学習に必要な「スキル」を高めることが教育活動の大きなねらいとなっている。そのため、美術の授業も手指の巧緻性や手と目の協応といったスキルの向上を図る活動として行われてきた。

こうした状況の中で、子ども達が作った作品を美術室の廊下に掲示したり、センター内で行われる実践発表会で作品を展示したりすることで、少しずつ教員や保護者の美術に対する考え方が変わってきていると感じている。

教員が子ども達の作品を実際に見て、「あの子がこれを作ったの？」「すごくきれい！」と言ってくれたり、子ども達が飾られた自分の作品を嬉しそうに指さしたり写真を撮って欲しがったりする様子を見て保護者も笑顔になったりする。そうした日々の出来事の積み重ねから、スキルの向上だけでなく、情操面での美術の意義を実感してもらえていると感じている。

●子ども達が豊かに生きられるように

ここでの活動において、私は２つの目標をもって美術教育に取り組んでいる。

1つ目は、子ども達が自分なりの楽しみや喜びを見つけ、人生をより豊かなものにできるように、充実した美術活動を提供することである。

「楽しい！」「嬉しい！」「できた！」という気持ちになったり、「この作品のここが好き。」「この色きれいだな。」と感じたりする経験をたくさん重ねることができるように、美術の授業をより良いものにしようと日々取り組んでいる。

2つ目は、障害のある子ども達がより自分らしく豊かに生きられるように、美術を通して地域の人たちに知る、考える機会を提供することである。

具体的には、特別支援教育センターの子ども達の作品展をすることである。子ども達が実際に作った作品を地域の人たちに見てもらうことで、まず、子ども達の存在を知ってもうこと、そして考えてもらうことが、子ども達がより自分らしく豊かに生きられる社会につながると考えている。

これまでに、センターの近くにあるコンケン大学で作品を展示する機会があった。今後は、ナイトマーケットにあるアートギャラリーで通常学校の作品展と共同してセンターの子ども達の作品を展示させてもらうことになっており、最終的にはセンターの子ども達の作品だけでも作品展を開きたいと考えている。

特別支援教育センターでの美術教育を通して、障害のある子ども達がより豊かな生活を送ることができるように、少しでも力になれたらと思う。

【筆者紹介】中澤さつき（なかざわ・さつき）　肢体不自由特別支援学校と知的障害特別支援学校での教員としての勤務を経て、2018年6月にタイの特別支援教育の充実を目指して、コンケン第9特別支援教育センターに赴任。美術担当教員として活動している。1990年生まれ。長崎県佐世保市出身。

写真①　キャプション

手形を押したり手で色を塗ったりして、様々な感覚や表現を楽しみながら花束を描いている。

写真②　キャプション

コンケン大学で行われた世界自閉症啓発デーのイベントにおける作品展示